

農業技術センター普及指導部作物関係情報

タイトル：水稲の生育状況（8月24日現在）について

発信日：平成29年8月24日

1 生育状況

7月末から8月第3週にかけて、平年に比べて日照不足、低温で推移したことから、早まっていた生育は平年並みになっています。5月中下旬移植の「キヌヒカリ」「はるみ」の出穂期は早まりましたが、6月上中旬移植の水稲はほぼ平年並みとなっています。

また、「キヌヒカリ」「はるみ」の稈長は平年に比べるとやや長い傾向にあります。

2 留意事項

今後の水稲の技術指導においては、次の点に留意してください。

(1) 気象

気象庁が8月24日に発表した1か月予報では、気温は「平年並または高い」、降水量は「平年並か多い」、日照時間は「平年並か少ない」となっています。

(2) 病害虫

○紋枯病

今年は発生が多くみられます。多発すると倒伏の原因になるので、上位葉への進展が認められる場合は、薬剤散布を行います。



写真1 紋枯病



写真2 紋枯病で早期に倒伏した水稲

○ウンカ類・ツマグロヨコバイ

発生が見られます。出穂期に排泄物で穂が黒く汚れる(すす病)ことがあるので、必要に応じて薬剤散布を行います。



写真3 ツマグロヨコバイ成虫



写真4 すす病

○稲こうじ病

昨年、発生したほ場では、本年も発生する可能性があるので注意しましょう。

収穫後、調製段階において玄米の汚れの原因となるので、発病穂を除去し、ほ場外で処分します。



写真5 稲こうじ病

(3) 水管理

登熟期（出穂後 10 日から 30 日）は、酸素補給により根の活力を維持するために、間断かん水を行います。間断かん水は、湛水状態（3 cm 程度）にして、水がなくなったら再び湛水にすることを繰り返します。

落水時期は、出穂後 30 日以後とし、早期の落水は避けます。早期落水は玄米の充実を妨げ、未熟粒や胴割粒等の障害粒の発生を助長します。

(4) 収穫

向こう 1 か月の平均気温はほぼ平年並または高い見込みのため、成熟期は平年並になると予想されます（別表参照）。成熟期は、出穂期以降の平均気温の積算温度を目安としますが、黄化籾割合、籾水分、倒伏程度、作期やほ場ごとの生育等から総合的に判断します。籾の黄化割合による収穫適期は表 2 のとおりであり、黄化程度の判断方法は図を参考とします。

表 2 収穫適期の目安となる品種毎の黄化籾割合

品種	黄化籾割合 (%)
キヌヒカリ	85
はるみ	85
さとじまん	90

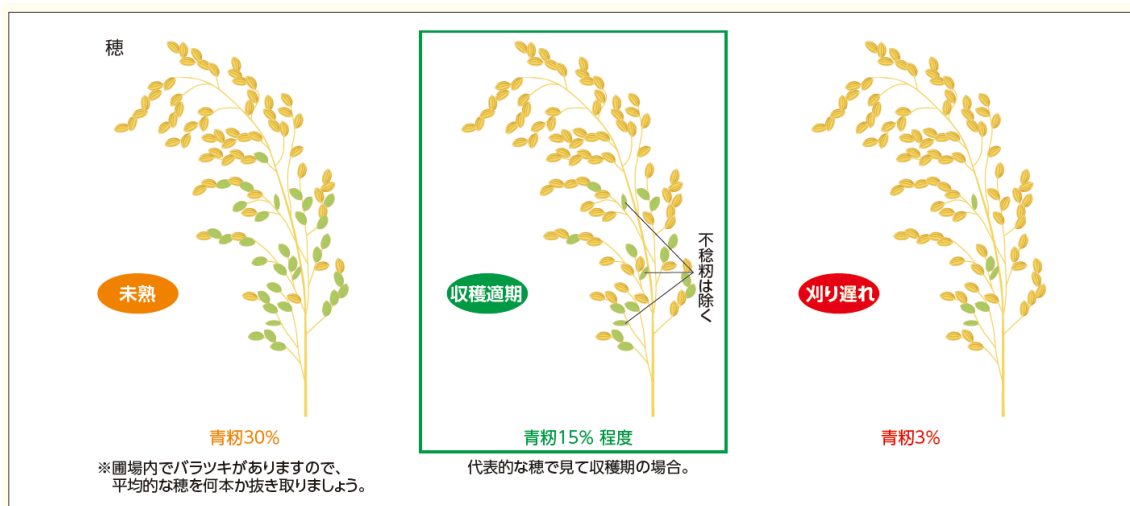


図 1 穂籾の黄化程度（割合）モデル

刈り遅れは、穂発芽や胴割粒等の発生を助長し、著しい品質低下につながるため、収穫は必ず適期に行います。「はるみ」は、「キヌヒカリ」よりも穂発芽しにくいですが、刈り遅れのないようにします。

(4) 異品種・異物混入防止対策

- ・収穫する水田や品種を間違いのないよう事前に確認作業を行います。
- ・収穫する前に、水田内にゴミや空き缶等がないか点検します。
- ・雑草種子の混入を防ぐためクサネム等の雑草を除去します。
- ・倒伏した稲をコンバインで収穫する場合、株が抜けて小石等が混入しないよう注意します。
- ・コンバインや穀類搬送機等は、エアーコンプレッサー等を使って丁寧に清掃します。

(5) 台風対策

台風の襲来が予測される場合、被害の回避、軽減のため、次の対策が有効です。

水田等の見回りについては、気象情報及び周囲の状況を十分に確認し、大雨、強風が治まり、安全な状況になってから行います。

ア 事前防止対策

- ・用排水路の詰まり等の点検、清掃を行い、浸水、冠水時の速やかな排水に備えます。
- ・台風前は水田の水を深く張り、倒伏や急性萎ちょうを防ぎます。

イ 事後対策

- ・損傷で茎葉からの蒸散量が多くなるので、台風通過後は湛水を保ちます。
- ・風台風、特に台風が北側を通過する場合は、潮風害（塩害）を受けやすいため、台風通過後、可能な場合は、動噴等を利用して真水を散布し、洗い流します。
- ・台風通過後にウンカ類やコブノメイガ等の害虫が発生することがあるので、病虫害防除部の情報等に注意します。

(6) 作業安全

- ・コンバイン、乾燥機等の機械は、事前に必ず点検、整備し、計画的な作業に努めます。
- ・トラクターのコンバイントレーラー搬送は、低速走行のために夕暮れ時等に自動車との接触の危険性が高まります。低速車マークや反射シールを車体につけて、事故防止を図ります。
- ・収穫作業を始める前には、コンバインの転倒・転落を防ぐため、事前に路肩や畦畔の状態を確認します。
- ・コンバインの積み下ろし時や勾配が大きい水田へ出入りする場合は、充分強度の高いブリッジ等を用いて低速で行います。
- ・コンバイン作業中に、ワラの詰まりやその他異常が発生した場合は、必ずエンジンを止めて対処します。
- ・農作業中の熱中症に十分注意します。

【別表】

◎農業技術センター（平塚市）における出穂期と成熟期（概ねの目安）

品種名	作期	本年の出穂期 (平年の出穂期)	登熟日数	登熟積算温度	平年の成熟期
キヌヒカリ	5月 下旬植	(8月6日)	38日	990度	9月13日
	6月 上旬植	8月11日	40日	1,030度	9月18日
	6月 中旬植	8月16日	42日	1,040度	9月27日
はるみ	6月 上旬植	8月12日	40日	1,030度	9月19日
	6月 中旬植	8月17日	43日	1,060度	9月28日
さとじまん	6月 上旬植	8月18日	44日	1,060度	9月28日
	6月 中旬植	8月21日	45日	1,060度	10月5日

(注1) 5月下旬植の平年の出穂期は平成14～18年の平均データに基づく。

連絡先

農業技術センター普及指導部作物加工課
平塚市上吉沢1617
TEL：0463-58-0333 内線381～384
FAX：0463-58-4254